

空き家対策の実績は

空き家の対策事業利用は92件



上原 正一 議員

再利用できる空き家の有効活用と定住化促進をはかるため、取り組んでいる空き家リフォーム促進事業と、空き家バンク事業など制度の利用実績はどうなっているか。

又、今年始まった危険家屋解体事業の件数は、いくらか。

再活用は92件である

町長

空き家リフォーム促進事業の実績は、28件で1326万8千円の補助金を交付している。又、空き家バンクの活用は延べ64件となっている。危険家屋解体事業の対象は2件である。

寄附された土地を若者に無償で提供できないか

上原議員

今後でも再利用できる空き家の対策事業を進めてもらいたいと考えているが、危険家屋などの再利用不可能な空き家は、地域を限定して町に寄附してもらい、さら地にしたうえで、定住を条件に若者へ無償提供する。

こういったことで町を活性化したい町長の思いを地権者に伝え寄附してもらうと、定住化と空き家対策を同時に解決できると思うがどうか。

充分検討する

町長

空き家実態調査などは終了しており、登記上の問題とか、税法上の問題とかあるもので、どういふふうに対応していけばいいか充分検討する。

有害鳥獣の処理は

上原議員

数年前までは、サル被害対策を議論していたが、近年は獣

対策に追われている。

本町では、特にイノシシの被害が多発して猟友会やワナ免許者が駆除している。その処理方法と件数はどうなっているか。

埋土による処理をしている

町長

大隅地域振興局管内のほとんどの市町では、埋土による処理で一部の市町で焼却処理している。

	H29
イノシシ	1393
シカ	2
サル	237
タヌキ	1191
アナグマ	783
カラス	1883

大崎町捕獲実績

	H26	H27	H28	H29	H30
イノシシ	38	70	69	107	96
シカ	0	0	0	0	0
サル	20	40	25	17	6
タヌキ	100	149	200	233	25
アナグマ	0	43	49	53	29
カラス	120	79	57	23	30

ジビエ処理加工施設建設は

上原議員

岐阜県で発生した豚コレラは

中部地方の八県に拡大し同県では、養豚農家の47%、頭数では52%が殺処分されている。

豚コレラの伝染源はイノシシである。この頭数を減らす事が大事で、大隅半島全体でジビエの加工処理まで考えるべきと思うが処理施設はできないか。



捕獲されたイノシシ

処理施設は思うように進んでいない

町長

この事は、4市5町にとっても重要な問題であり大隅総合開発期成会の中で知事にも再三申し入れをし、大隅地域振興局に

おいても被害対策を含めて提案をしてきたが、ジビエの処理加工施設については思うように進んでいない。

公営霊園はできないか

上原議員

この事については、何回否定されてもどうしても必要だと感じ公の場で議論していきたい。いつかはくる最期、誰でも向かえる死、昔は土葬、今は火葬、これからは、自由葬になりつつある。

色々な考えがある中で樹木葬は、これからの選択肢の一つであり、公営霊園でやる事が望ましいと考えるがどうか。

結論を出し得ていない

町長

樹木葬は、時の流れの中にある事は認めるし、想いも十分理解している。

しかし、場所をどこにするか非常に問題もあり、町営で取り組むことに対して結論を出し得ていない。